



すべての子どもに幸せなスタートを

Home-Start Japan

特定非営利活動法人ホームスタート・ジャパン

家庭訪問型子育て支援 ホームスタート®



ホームスタートとは、6歳未満の子どもが一人でもいる家庭に、研修を受けた地域の子育て経験者が、週に1回2時間程度訪問し、「傾聴」（親の気持ちを受け止めて話を聴くこと）と「協働」（親と一緒に家事や育児、外出などをする）をする新しい家庭訪問型子育て支援ボランティア活動のしくみです。イギリスで50年前に始められ、世界22ヶ国、日本でも約120地域で始まっています。

『届ける支援』で孤立化防止

子育てひろばや講座に出かけづらい親子、身近に子育ての不安や悩みを話せる人がいない親などに地域の子育て経験者が訪問し寄り添い、親の心の安定と子育て意欲の向上を生み出します。

住民参加型の安心安全な支援

ホームスタートには、50年間磨かれた「地域住民が安心安全に訪問支援できる工夫としくみ」があります。行政と市民が協働することで、地域の子育て力を底上げしてゆきます。

傾聴と協働で 子育て家族をエンパワメント





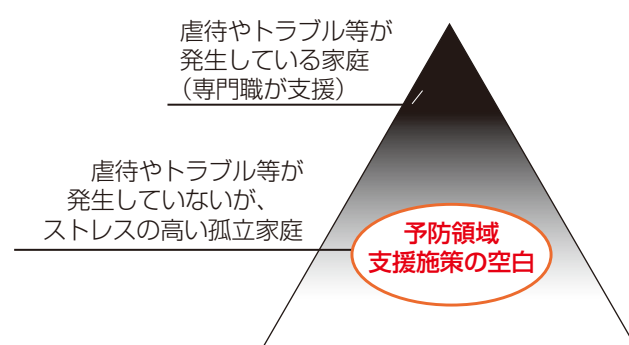
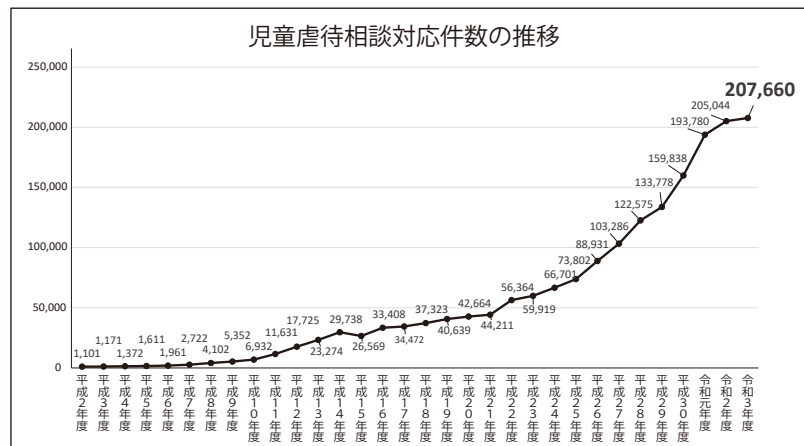
なぜ、今、ホームスタートが必要なのでしょう？

核家族化 地域のつながりの減少 子育てが孤育てに ... 増加する児童虐待

社会構造の大きな変化の中で、子育ては「孤育て」化しています。誰にも相談できず一人で問題を抱え、自分を見失ってしまう事態が起きうるのです。子育ての困難さは親だけで乗り越えられるものではなく、地域全体で子どもを育む社会づくりが、今、求められています。

通告以外に地域住民ができること ～ 問題の発生予防のために ～

今日の家族では、健康度が高いとみなされる家族であっても、出産・離婚・離職・介護といった環境変化や心身の不調によって一気にストレス要因が増大する傾向にあります。孤立感やストレスが増幅する前に支援や手助けを受けられる社会づくりのためには、支援者の層を厚くし裾野を広げる必要があります。ホームスタートの住民参加型の支援システムは、こうした社会を実現します。



ホームスタートへの期待

日本社会事業大学専門職大学院 教授 宮島 清

私は今、厚生労働省が設置した「児童虐待等要保護事例の検証に関わる専門委員会」のメンバーとして、発生した虐待死事例とこれへの対応について検証する作業に参加させて頂いています。私は、この作業を通じて、改めて次のことを教えられています。

第1に、児童虐待は、非常に多用な状況のもとで発生するということです。確かに、どのような事情にあるにせよ、児童虐待を許容することはできません。しかし、悪意に満ちた加害だけでなく、行き詰まり疲労の極限にあった人が発作的に行ってしまうことによって、たくさんの悲惨な事件が生じていることを、私たちは忘れてはなりません。

第2に、この問題の解決には、専門職による関わり

と市民の関わりの両方の充実が必要だということです。これは、決して重篤な例に専門職がかかわり、予防的な関わりは市民が担うということだけではありません。確かに、悪意に満ちた虐待で、加害者に暴力性や攻撃性がある場合は、市民が直接関わることは適切ではありません。しかし、孤立し子どもの養育に悩み疲れている保護者には、専門職と市民が力を合わせて行う支援こそが効果的なのです。

ホームスタートは市民による市民のための活動です。しかし、ホームスタートは市民と専門職が力を合わせるための仕組みでもあるのです。私は、ホームスタートの活動が広がり、子どもたちと保護者が虐待の苦しみから救いだされることを心から期待しています。

支援が届いていない家庭とは？

現在、ほとんどの自治体では、全戸訪問事業、地域子育て支援拠点事業、養育支援訪問事業、ファミリーサポート事業などの様々な子育て支援施策を打ち出しています。しかしながら、それでも、「既存の支援が利用できない」「支援が届いていない」子育て家庭が多く存在しています。

ホームスタートは、こうした支援のすき間で誰かの手助けを必要としている「気になる子育て家庭」に支援を届けることができる訪問支援の新しいしくみです。

既存の支援の隙間（ニッチ）

- 地域子育て支援拠点事業に
出てこない親・これない親
- 乳児家庭全戸訪問事業で
発見された気になる家庭
(継続したケアができない非困難家庭)
- 養育支援訪問事業で
対象とならない気になる家庭
グレーゾーン家庭
- ファミリーサポートセンター事業で
対応できない親自身への支援

引っ越して来て
地域のことがわからず不安 ...

大勢の人がいる拠点は気疲れして苦手 ...

双子や多子の育児でヘトヘト、外出は大変 ...



頼れる人や相談できる人がいない ...

家にこもりがちで話し相手もない ...

有料支援は余裕がなくて使えない ...

一人で頑張るのに疲れた ...

保健師としては、継続訪問する程
問題が深刻ではないし ...

ホームスタートは 届ける支援の裾野を拡げ 親子の孤立を防止します

Q 支援を届けるきっかけは？

全戸訪問時の「気になる親子」にホームスタートの利用を薦めて紹介されるケースが多くあります。養育支援訪問で継続するほどではないけれど、誰かの支えが必要と感じる時などです。(P10をご覧ください。)

その他、ひろばに来られる方の中にも、自宅でゆっくり話を聴いてほしい、子どもと2人きりで過ごす時にいてほしい、というニーズも少なくありません。

Q ファミサポとの違いは？

ファミリーサポート事業では、子どもを預かったり、親の代わりに送迎をしたりする支援が主体であり、支援者は子どもと過ごします。ホームスタートでは、保育はできませんが、親子と一緒に過ごし、親自身に寄り添い支援します。又、利用は無料です。

ファミリーサポート事業実施団体による ホームスタート導入例

「ファミリーサポート事業に取り組んでいましたが、だんだん、うちにきて沐浴を教えてほしいとか、二人目のつわりで大変とか、お母さん自身のSOSもいろいろあって、子どもを預かるだけでなく選択肢を広げるべきじゃないか？何か他の支援がないのか？と感じ出していました。沐浴を手伝うことより、実は話を聞いてほしいという人もおられて、既存の制度だけでは支え切れない家庭もあることを実感するなかで、ホームスタートのことを知り準備にとりかかりました。

ホームビジターさんにも恵まれて、ファミサポとホームスタートとメニューが揃い、地域のお母さんからもありがたいと言われています。乳幼児健診時に説明に行ったり、拠点でスタッフが声掛けをしたり周知のための活動もいろんな人たちの協力を得ながら行っています。」



「当事者性」を活かしたホームスタートの支援

住民ボランティアの寄り添う支援が親の気持ちを元気にする

ホームスタートは、「当事者性」と「素人性」を重視した同じ子育て経験者ならではの無償ボランティアによる訪問活動として、1973年にイギリスで始まりました。この独自の訪問支援のしくみは、認証を得て世界22ヶ国に広がっています。

①ボランティアの「ホームビジター」は、週に1回2時間程度、定期的に家庭を訪問し、「傾聴（気持ちを受け止めて話を聴く）」と「協働（一緒に家事育児をする）」をしながら約2ヶ月程度親子と一緒に過ごし、子育て中の親の心を支えます。

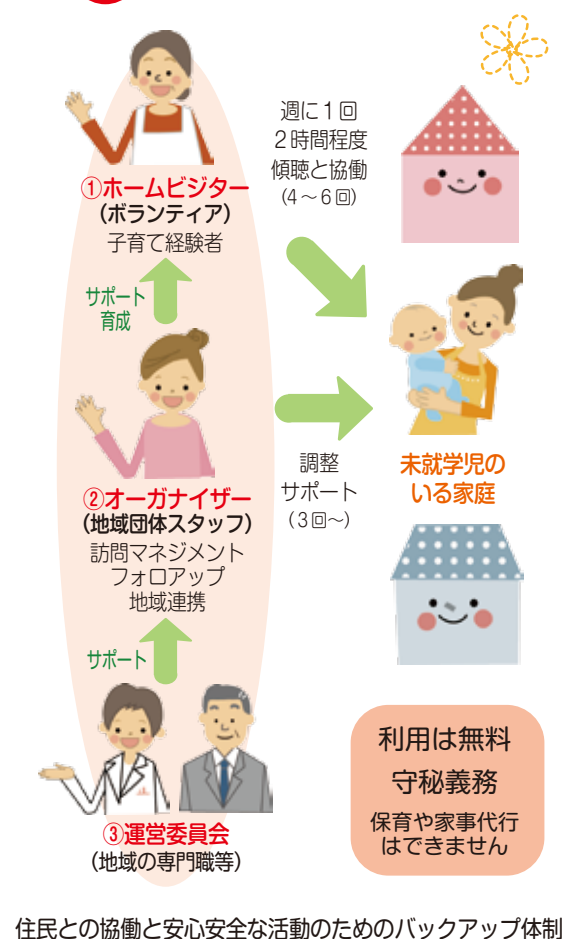
②そのボランティアを育成・サポートし、多様な利用家庭のニーズに沿った支援内容をマネジメントするのが「オーガナイザー」です。支援のムラや無理が生じないように、そして、効果の高い支援を提供できるように、利用家庭とボランティア双方を守る要の役割を担います。

③さらに、地域の専門職等で構成される運営委員会がオーガナイザーをサポートする体制を各地で整備し地域連携を促進しています。

それぞれが異なる役割を担い、互いに尊重し協力し合うスキームの体制で地域力が向上します。



ホームスタートの支援体制

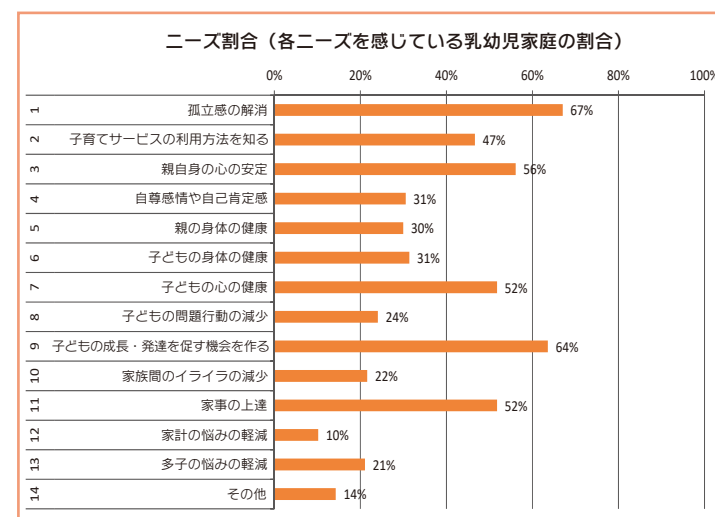


親自身の力を引き出す自立支援の効果

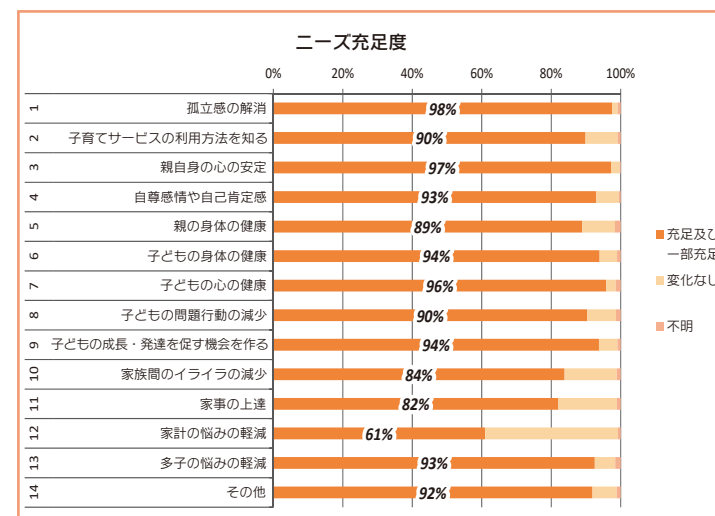
ホームビジターは、ベビーシッターやヘルパーのように親の代わりに家事育児をする人ではなく、親と一緒に家事育児をしながら共に過ごす、伴走型の支援者です。専門職のように指導はできませんが、ゆっくり話をしながら家事育児を一緒にやってみることはできます。

だれかが一緒にいることで得られる安心感と共に、話をすることで親自身の気持ちが前向きになり、子育て意欲やスキルが向上します。地域の親同士の対等な関係性を大切にした無償ボランティアならではの効果です。このフレンドリーな寄り添う支援の効果を最大限に引き出す「支援の質を担保する総合的な支援システム」がHSの特徴です。

支援のニーズ数



ニーズ充足度



HS-QISS データベースシステム 2019/3/31 集計結果

お互い様の関係づくり ＝地域の社会資源 ソーシャル・キャピタルの醸成

ソーシャルキャピタルとは、「地域のつながりが社会資源」「お互い様の関係づくりが地域の社会資源である」という「つながりを重視しながら地域力をつける」という考え方です。

ホームスタートではお互い様の関係づくりが地域で育まれ、「お互い様という地域のつながり＝安心して子育てできる社会」づくりが進んでゆきます。また、子育て家庭を中心に、行政・関係機関・NPO・住民との連携も醸成されてゆきます。

公共サービスの担い手は、行政から、行政とNPO・住民とのパートナーシップへ変わりつつあります。行政や保健師だけでなく、NPOや住民の力を発揮することで地域力の向上につながり、まちづくりが子ども虐待予防に力を発揮してゆきます。

Q ホームビジターに資格は必要？

いいえ。特に資格は必要ありません。当事者性が重視されますので、子育て経験があり、のべ37時間の養成講座に全出席できることが条件です。ホームビジターとして求められる姿勢や守秘義務を含めた倫理観、傾聴スキルなどを全国共通のシラバスに基づいた演習型の養成講座の中で学んでゆきます。

Q なぜ、無償ボランティア？

親の気持ちに寄り添うことを焦点とした支援だからです。ホームビジターは、家事や育児の代行や指導はしません。友人や親戚のようにゆったりと一緒に過ごすしながら、親の話を耳を傾け受け止めることを大事にします。

ホームスタートの主な支援内容と利用後の変化

主な支援内容

傾聴

受容：話したいこと（不安／悩み）を聴く
共感：気持ちを共有する、頑張りを認める
一緒にいる：傍らにいて、何ともしない話
情報提供：地元の話、子育て経験談
簡単な献立メニューなど

協働

家事：一緒に食事やお菓子を作る
外出：一緒にひろば・健診・買い物等に行く
子どもと遊ぶ：室内や公園で一緒に遊ぶ
地域のつながり：地域の事業と一緒に参加
他の支援の利用：窓口と一緒にに行く

利用後の変化例

- ・自分の子育てに自信がついて不安が解消した
- ・悩みはあってもそれでいいと思えるようになった
- ・イライラが減り子どもを怒鳴るのが減った
- ・子育てが楽しいと思えるようになった
- ・子どもを連れてひろばに行けるようになった
- ・ファミサポなど保育を利用できるようになった
- ・子どもの接し方や遊び方を知ることができた
- ・家事育児にガンバリ過ぎてた肩の力が抜けた
- ・夫や親に手助けしてほしいと言えるようになった
- ・復職して仕事と育児を両立しようと決心できた
- ・視野がひろがって人と話せるようになった
- ・子どもの問題行動が減少した



ホームスタート独自の「質を担保するしくみ」とは？

01 QUALITY ASSURANCE

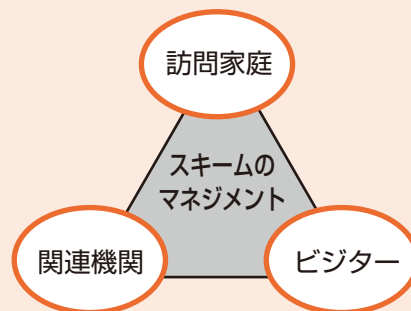
活動の質を高める
オーガナイザーの
見立て・調整・連携

オーガナイザー

地域の子育て経験者が安心安全な訪問支援を提供するためには、「オーガナイザー」が欠かせません。オーガナイザーの役割には、主に以下の3点があります。

- ① 訪問活動のケースマネジメント
- ② HSホームビジターのリクルートと養成
- ③ 地域の各種支援機関との連携

これらの役割を担うオーガナイザーには、一定の専門性が必要となります。社会福祉士・保健師等の有資格者や地域子育て支援拠点事業などを数年以上中心となって取り組んで来たNPOのメンバーなどもよき候補者となります。



オーガナイザー養成コース

新任オーガナイザーを養成する4日間の研修コースは、ホームスタート・ジャパンが年に5～6回主催しています。日程など詳細はHSJへ御問合せ下さい。



ソーシャルワーカーと オーガナイザー

静岡福祉大学教授 相原真人

ホームスタートにおいてオーガナイザーは中心的な働きをしていますが、そのようなオーガナイザーの仕事の中でも、特に個々の利用者の支援過程における進行管理は利用者の最善の利益に直結することから極めて重要です。そこで今回、オーガナイザーの支援過程に着目し、どのような進行管理を行えば適切な支援が実現できるかを明らかにするため、支援実績豊富な複数のスキームのオーガナイザーから進行管理の実情を確認すること等を通じて、適切な支援実現に結びつくと考えられる諸点を整理することにしました。

その結果、ホームスタートが基本的な支援の手順としている過程はインテークから始まるソーシャルワークの過程とほぼ同一であること、それぞれの過程におけるオーガナイザーの支援原理には「インフォームド・コンセント」「ストレングス視点」「エンパワメント」などソーシャルワークの基本的考え方や方法が内包されていること、「ボランティア・コーディネート」「スーパービジョン」「ネットワーキング」がオーガナイザーの行う支援手順の中に自動的に組み込まれていること、等が把握されました。

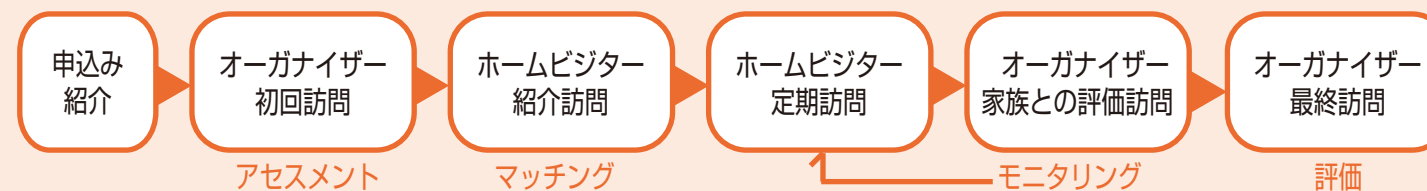
このような支援を総合的に行っているオーガナイザーは正にソーシャルワーカーであると言って良いと思われますし、実際そのような支援が適切に実行された場合、支援過程における著しい困難は発見されませんでした。そのような点からも、ホームスタートの仕組みが優れたものであるということを理解できると考えます。(2019年版本冊子より)

02 QUALITY ASSURANCE

活動の質を高める
ケースマネジメント
システム&ツール

各種ツール

支援効果を確実にするためには、「アセスメント、モニタリング、評価」を行う共通指標を備えたケースマネジメントシステムが不可欠です。ホームスタートでは、各ステップで使用する書式やマニュアルなどが整備されています。また、評価結果データを集積するHS-QISSデータベースシステムを活用することにより、地域のニーズ動向把握や効果検証などの支援の質の向上に役立てています。



ケースマネジメントのプロセスとツール

03 QUALITY ASSURANCE

活動の質を高める
研修プログラム&
ネットワーク

研修・サポート

HSホームビジター養成講座

地域の子育て経験者が安心安全な訪問支援を行うためには、訪問者の養成研修がたいへん重要です。ホームスタートでは、のべ37時間のHSホームビジター養成講座を、各地域組織スキームが全国共通のシラバスに基づき開催しています。



<内容>

傾聴スキル、訪問実務の理解、守秘義務等の活動指針、子どもの権利や保護、他

<参加条件>

- ・子育て経験者
- ・全日程参加
- ・修了後の活動の意志



ネットワーク型研修と スキーム総合支援プラン

ホームスタートの全国ネットワークを通じて、オーガナイザー・ホームビジターを対象としたスキルアップ研修が、全国・エリア・県単位で開催されています。また、HSジャパンは、コンサルタントを派遣し、活動のPDCAを定期的に行う「地域スキーム総合支援プラン」を通して、支援活動の質の向上をサポートしています。





ホームスタートのエンパワメント ～各地の体験談～

実際にホームスタートを利用されたお母さんと訪問ボランティアのホームビジターさんのお話をご紹介します。ホームスタートは、子育て中のお母さんたちの「小さなピンチ」に傍らでそっと支える「小さなサポート」ですが、質を担保するしくみの中で利用する側とサポートする側双方の安心感や信頼関係が育まれ、お互いの気持ちにプラスの変化が生まれてゆきます。利用者がボランティアになる循環もあり、お互い様のつながりが紡がれていきます。

FAMILY

虐待って他人事じゃないですよ

「人を頼っていいんだよ、楽に話せるよホームスタートは」ってみんなに言いたいです。

高城さん（2歳のお子さん）

仕事を辞めて子どもと 24 時間向き合うようになって、2 ヶ月程すると生活ギャップの大きさに段々とイライラして怒ってばかりいるようになっていました。自分の気持ちを飲み込もうとしたんですが、我慢し続けていると子どもに優しい言葉をかけられない自分がいました。私は人に頼るのがヘタな方で、みんなは当たり前前に子育てしているし自分が足りないだけなんじゃないか、と悶々と思ってたんです。そんな頃に夫がパンフレットを持って帰って来て、こういうのがあるよと。その時初めてホームスタートを知りました。

申し込みをして最初にオーガナイザーさんとは、子どもとどんな風に遊んだからいいかとか、子どもが騒いだりごねた時にどうしたらいいかとか、子育てしながら家事をどうやったらいいかとか、そういうことを何とかしたいので一緒にできたらとお話ししました。

ホームビジターさんとはすぐに打ち解けられましたね。ビジターさんの態度とか接し方を見ていて、気づくこともたくさんありました。こんなこともあってねえとか、ぶつぶつ話せたこともよかったですね。友達も家族も話を聞いてくれるのはわかってたんですが、愚痴になるのがイヤで話せなかったんです。こんな些細なことでも言ってもいいんだという心のタガが外れた感じで楽になりました。話せば大したことなく終われるんですよ。そんな風に話していいんだって思えたことが大きいです。

子どもがビジターさんに懐いて、また会いたいという気持ちはありましたが4回で終了することにしました。終わりが決まっている方が依存しなくてちょうどいいのかなと（笑）。すごくいい出会いだったと思いますね。



加藤さん（2ヶ月のお子さん）

里帰り出産中に夫の転勤が決まって、知り合いがまったくない土地で初めての子育てが不安で不安でしかたありませんでした。両親は仕事をしていて頼れなかったし、主人は休みもなかなかとれないほど忙しくて、外にも出られず人と話すことがなく、保健師さんが訪問の時にホームスタートを紹介してくれて申込みました。

ビジターさんとは健診に一緒に出かけて、これからは一人でも大丈夫と思えたいし、外とのつながりを作ってもらえました。2時間が本当にあっという間に感じる程いろんな話をしましたね。引越しで家の中の片付けも子どもが寝ている間にやらなきゃと思い詰めていて、ヘトヘトなのに気が立っている感じがあったけれど、そういうことを話せたこともよかったと思います。身近にこの町に住んでいる人の話をきけたのが嬉しかったです。

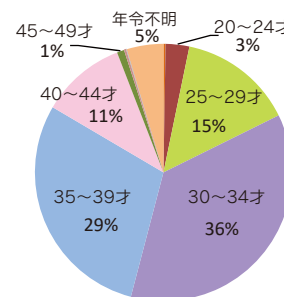
安心感が作れて
いろんな可能性を
ひろげてもらったと感じています

加藤さん（1歳半のお子さん）

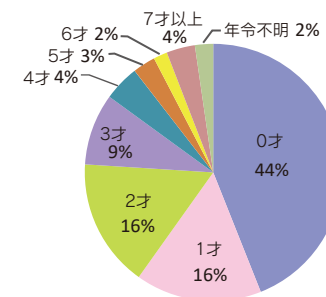
主人の仕事が忙しいので、私だけ育児をしている感じがしていました。丸一日子どもと一緒にいると、一方的に話ているだけで疲れてしまっ

ていただくのが楽しみで、話を聴いてもらうだけで全然違いました。友達とも身内とも違って、個人情報厳守ということもあって気を遣わずに今思っていることを全部話せました。同世代じゃなくて、子育て経験が豊富な方だった点もよかったですね。大丈夫だよという一言がとてもうれしかったです。

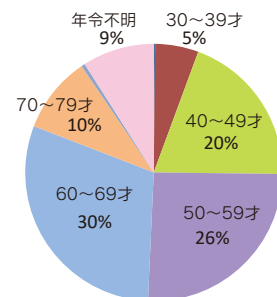
人生の中で大きな出会いでした
私が笑顔でいれば家の中もいい雰囲気になれるし



利用者の年齢



子どもの年齢



ホームビジターの年齢

VOLUNTEER

訪問後、オーガナイザーさんに「それでいいんですよ」と言ってもらえてモヤモヤを自分で抱え込まなくていいので安心！

ホームビジター 鈴木さん

自分が子育て中は、子どもの人見知りが激しくてグループに入れなかったり、「親がこうだから子どもが…」と言われてメゲルこともあったんで、困っているお母さんに少しでも役に立ちたいなという思いで活動に参加しました。私にとってもかわいい赤ちゃんと一緒に過ごせる楽しい時間でしたね。

ホームビジター 岩間さん

使いたい子育て支援の利用料を払えないという話をきくことがあったので、無料で利用できるホームスタートはいいなと思って参加しました。傾聴とか協働とか生半可な気持ちでできるのかな～と講座中は不安もあったんですが、実際に行ってみると不安な気持ちは消えてましたね。ホームスタートは、お子さんとママとの出会いがあり、楽しくて勉強になります。

2時間って長いなあ話をもつかなあと心配でしたが、実際はすぐに時間が経ってアツという間！

ホームビジター 近藤さん

最初は緊張しましたが、子どもと一緒にいるのでぐほぐれてきました。若い人の感覚を自分が教えてもらっているようなカンジで。初めてのお子さんで、寝返りをうつようになったのでお部屋の片づけを一緒にしたりしました。「この子が大きくなったら近藤さんっていう人がいたんだよって伝えたい」と言われて嬉しかったですね。

ホームビジター 国分さん

二人目が生まれた上のお子さんが赤ちゃん返りをして大変だったり、夕食作りの時に赤ちゃんがぐずるので苦心されていたり、あれもしなきゃこれもしなきゃと一生懸命のお母さんだったり、そんな方々が話をしたことで心のツッカ工がとれたのかなと感じることがあります。ママが元気になると不思議と子どもも落ち着いてくるんですね。ママのありがたうの言葉に私も笑顔でいられる活動で、やっててよかったです。

ママが元気になると不思議と
子どもも落ち着いてくるんですね。

ホームビジター 永山さん

養成講座はもっと早く受けていたら自分の子育てにも役立っただろうなと思える内容でした。特に傾聴の講座では、実生活で「お母さんに話せて気が楽になった」と言われて、とても嬉しかったです。こうした方がいいよって言わずに、ちゃんと受け止められたんですね。初めての訪問は本当に緊張で一杯でしたが、オーガナイザーさんが上手に仲立ちをしてくれて。お家でよもやま話をするうちにママ自身が答えを見つけたようで、傾聴の力ってすごいなあと感じました。

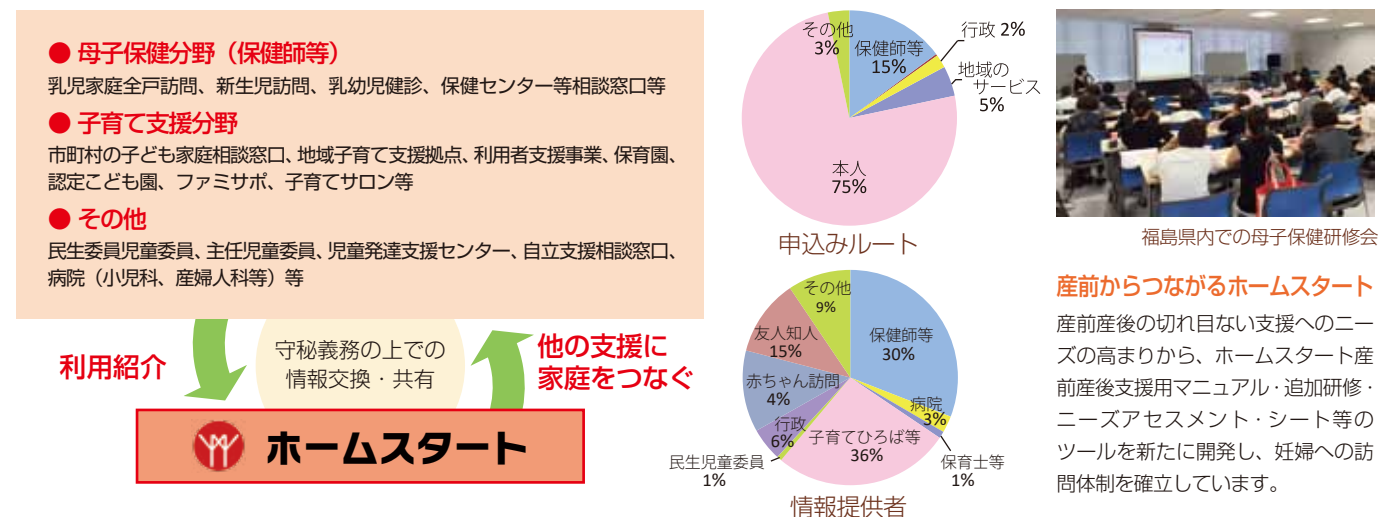
この活動のスピリッツは、
人生の指針にもなることがたくさん！
人に優しくなれるし、
違う意見を柔軟に受け止められるように♡





行政と住民との協働によるまちづくり

ホームスタートは、住民ボランティアによる活動が特徴ですが、「虐待の早期予防」、「産前産後の切れ目ない支援」、「利用者支援」の一翼を担えることから、全国各地で自治体の委託協働事業となりつつあります。又、支援現場では地域保健師との連携が重要なため、ホームスタート利用紹介方法や困難家庭を共に支える上での留意点など、具体的にどのように連携することで地域の親子の QOL を高められるのか、事例を通して共に学び合う母子保健研修会も開催しています。



市 委託事業としてのホームスタート

会津若松市こども家庭課 主査 小川 款

会津若松市では子育て支援に力を入れており、平成 26 年度からホームスタート事業をNPO法人への委託事業としました。初めての子育てに対する不安がある家庭や周りに支えてくれる人がいない家庭、このままだと虐待してしまうかもしれないと感じている家庭等、悩みや問題が大きくなる前の予防を重視しています。転居してきて知人がいない方が「救われた」「一緒にいてくれることが本当に心強い」という評価や話をいただいています。今後も身近に相談相手がいらない、引きこもりがちな子育て家庭の不安感・負担感を緩和するとともに、地域・行政とのつながりのきっかけを作り、子育て家庭の孤立化を防ぎ、さまざまな行政の支援策の利用に繋げていければと思います。

県 地域の子育て支援の充実に向けて

福島県保健福祉部子ども未来局 次長 小川 武

核家族化が進み、地域・近隣のつながりが希薄になっている時代になってしまいました。家庭での子育ての負担が大きくなり、育児ノイローゼや幼児虐待という悲しい深刻なケースも発生しています。地域の子育て力を少しでも取り戻してゆくことが求められていると思います。福島県についていえば、東日本大震災・原子力災害で子育て環境も深刻な影響を受け、多くの子育て中の家族も避難を余儀なくされ、さらに地域の子育て力を高める必要があることが浮き彫りになりました。福島県内のホームスタート事業の始まりが、会津坂下町に避難された子育て家庭への訪問だったことは、消して偶然ではなかったと思います。

地域の子育て支援の充実には、各地域に根ざして子育て支援の活動に取り組んでいる皆さんとの協働が必要でしょう。また、支援を

受ける人も支援をする人も共に満足する活動が理想であり、そうでなければ持続的な支援活動にはならないでしょう。そうしたことからすると、ホームスタート事業は時宜に合った子育て支援活動であると思います。国も、ホームスタート事業を進める皆さんの実績を見て、子ども子育て支援新制度の公式の Q&A の中でホームスタート事業に言及し認知してくれています。福島県は、平成 27 年 3 月策定の「ふくしま新生子ども夢プラン」で、ホームスタート事業の普及を子ども・子育て支援制度の推進のための方針として位置づけています。県の役割として、ホームスタート・ジャパン及び福島ホームスタート推進協議会の皆さんと連携しながら、人材の養成や普及啓発に引き続き取り組んでいこうと考えています。（ホームスタート東日本大震災復興支援協働事業報告書2015より引用）



母子保健分野の保健師との連携

母子保健研修会後の三輪先生（右記）と白河市保健師さんとの座談会についてご紹介します。

● 母子保健における家庭訪問の現状は？

現在 6 名で新生児・未熟児訪問と乳児全戸訪問、要観察者・要支援者の訪問をしております。乳幼児健診など他の業務もありますので、継続訪問する程ではないけれどやっぱり気になるケースについてはどうしても後回しになってしまい対応できないケースはたくさんあると感じています。育児協力を得られないとか、地域関係性の希薄化でお母さん自身が一人で悩んだり、閉じこもったりしているケースもありますが、それに対してなかなか上手くいっていないと感じています。

● そのような状況を打破するための解決口は？

やっぱり自分たちだけで解決しようと思うのではなく、いろんな関係機関と連携することが大事ですね。対象者によってニーズはそれぞれ違うので、いろんなサービスメニューを提示できてご本人が選択できるということも大事かと思います。

● ホームスタートと連携してどう感じていますか？

実家が遠くて周りに協力者がいない方の場合では、一人では子育てひろばに一步踏み出せずにはいたところを出かけるきっかけができた、孤独感が解消できたり、相談できる場がこんなにあるんだと自ら支援の場を見つかることができたり、ボランティアの方の力というのがお母さんにとっての力になり、紹介して良かったと思いました。電話相談を長い時間される方でちょっとこれはボランティアさんをお願いするのは難しいかなと思っていた方が「聞いてもらえるだけで気持ちが楽になります」と話されたので利用紹介をしたところ、本当にぴったりニーズが合ったという感じで、自分でどうしていいかわからない状態が何となく意志というか方向性が見えた様になりました。対応が速くタイムリーという点もよさですね。問題も複雑化していて協働で支援することは今後ますます重要になってくると思います。



保健師が担う母子保健に欠かせないホームスタートの存在

梅花女子大学看護学部教授 三輪眞知子

地域における家庭訪問型の子育て支援は、保健行政では母子保健法に基づき、行政保健師が母子保健の観点から「乳幼児家庭訪問」を行い、親子の健康状態、発達発育状態、生活環境との関連から健康課題を明らかにして、必要な支援を実施しています。

本来であれば行政保健師が担当する地区の全ての乳幼児を把握し、支援する責任がありますが、現状は優先順位をつけ優先度の高いハイリスク親子への家庭訪問に限定されている市町村が多いと感じています。

全ての親子が把握されない場合に懸念されることは、優先度が低くても、子育てをする日常の些細な不安や悩みが表面化せず、問題解決に至らないまま子どもへの不適切な関わりに発展してしまう潜在化する親子です。

このように小さな不安や悩みから子どもへの不適切な関わりに発展することを未然に防ぐためには、母（父）が育児中は30分でも1人になれる時間があったり、食事準備などの家事を一定期間援助してくれたり、子どもへのかかわり方を教えてくれたり、相談相手になってくれたり等、母（父）に寄り添って育児を支援してくれる身近な育児支援者の存在が必要です。この存在の一翼を担うのがホームスタートの家庭訪問型子育て支援活動であると感じています。

母子保健を担っている行政保健師は子どもの発達発育、親子の健康レベル、親の育児支援ニーズのレベルに合わせ、乳幼児親子の育児支援について、非専門職的支援であるホームスタート事業の家庭訪問型子育て支援活動と協働することで市町村における子ども虐待予防に結びついていくのではないかと考えています。（2015 年版本冊子より）



イギリスで 45 年前に始まった 素人性を重視した訪問支援

ホームスタートの訪問支援は、1973年にイギリス・レスターで始まりました。当時、子育て支援施設でボランティア・スタッフだったマーガレット・ハリソン女史が、親の気持ちに寄り添う支援の必要性を感じ、専門職と地域住民と一緒に子育て家庭を支援するしくみ・ホームスタートを始めたのです。



貧富の差や虐待・負の世代間連鎖を 断ち切るために

ブレア首相の時代に「児童は人生の最良のスタートをきるべきである」という理念のもと「Sure Start」プログラムが始まり、ホームスタートのアウトリーチ型支援はイギリス全土へ普及が加速してゆきました。現在では、英国内 327 地域 17,000 人のボランティアが 3,6000 家庭を訪問支援するまでに至っています。

世界 22 ヶ国でのホームスタート

世界では、22ヶ国でホームスタートの訪問支援のしくみが活用されています。途上国でも先進国でも、「傾聴」と「協働」に基づいた訪問支援が、質を担保するしくみを用いて実践されています。

ホームスタート・ワールドワイド(HSW)は、3年に1度グローバル・カンファレンスを開催し、多様な家庭への支援に関する経験知の共有が図られています。

ホームスタート・ジャパンは、HSW の認証を得た国内で唯一の団体として HSW の国際ネットワークに属し、日本でのホームスタートの普及と支援の質の向上活動に取り組み続けています。



HSW グローバル・カンファレンス 2017 東京 (国連大学)

ホームスタート・ワールドワイド
Home-Start Worldwide

イギリス、アイルランド、フランス、オランダ
ベルギー、スペイン、デンマーク、ノルウェー
ギリシャ、マルタ、チェコ、ハンガリー
ポーランド、ルーマニア、カナダ
オーストラリア、日本、ウガンダ
南アフリカ、ザンビア、タンザニア、ブルンジ

日本でのひろがり

日本では2006年よりホームスタートの調査研究が始まり、2008年に日本版システムを試行し、97%のニーズが改善されることが確認されました。現在、約120の市区町において、NPO法人や社会福祉法人などの地域団体が運営母体となり、ホームスタートの訪問支援を行っています。



地域スキーム運営団体の例

- 子育てひろば運営団体
- ファミリーサポート事業運営団体
- 子育て支援センター運営団体
- 児童養護施設運営団体
- 保育園運営団体・保育事業実施団体
- 子ども食堂運営団体
- 助産師や産前産後ヘルパーの団体
- 社会福祉協議会

上記のような既存団体がない地域では、複数の子育て支援経験者が新団体を立上げる場合もあります。

支援の質を高め合う ホームスタートの 全国ネットワーク

全国ネットワーク組織としての ホームスタート・ジャパン

設立当初は、先進的にホームスタートの調査研究とシステム開発に取り組んできた団体ですが、現在、約 120 の地域スキーム会員から成る全国ネットワーク組織として、組織基盤が形成されています。主な活動は以下となっています。(詳しくは HP をご覧下さい)

<調査研究>

HS-QISS データベースによる全国活動データ集計、支援効果に関する調査研究、活動マニュアルの改善、支援拡充プログラム開発等

<情報提供>

普及講演会の開催と講師派遣、利用周知やボランティア募集広報ツールの作成、SNS・HP 発信、メディア対応、政策提言、学会発表等

<地域スキーム運営支援>

導入支援や継続運営支援、オーガナイザーの新任研修と各種スキルアップ研修、コンサルテーション、被災地復興支援等

<HSW・各国 HS との交流>

合同研修の実施、グローバル・カンファレンスへの参加、ネット会議等での情報交換等

エリア別・県別ネットワーク

近隣地域スキーム同士の互助による支援の質向上のために、エリア別協議会が設立されました。近年では県域の協議会による活動も活発になり、地域特性に応じた支援のあり方を学び合っています。広域ネットワークによる関係機関との連携も進んでいます。

<エリア別>

北海道・東北、関東、中央、九州

<都府県別>

宮城、山形、福島、埼玉、東京、山梨、石川、愛知、大阪、広島、大分



質の高い訪問支援を提供するために

市民が参画しながら質の高い訪問支援を提供するためには、その体制作りが最も重要です。ホームスタートの立上げ準備は概ね以下のように進めてゆきます。地域で進めることを左側に、ホームスタート・ジャパン

がサポートできることを右側に記載しました。子育て支援に関わる地域の様々な機関や関係者との連携体制が組まれてゆくように、全国各地での実践例やノウハウを基にしたコンサルテーションや情報提供をホームスタート・ジャパンのサポートスタッフがを行い、地域での立上げを応援します。

実施体制と事業計画づくり

ひきこもりがちな親子に安心安全な訪問支援を届けるためには、支援の周知、支援者の養成、関係機関との連携等、地域の中で顔の見える関係・信頼関係をつくりながら安定したホームスタート活動を継続していくことが大切です。そのため、事業を開始する時点で、資金や人員体制を含めた中期的な事業展望も重要となります。

● オーガナイザー

オーガナイザーはホームスタート活動の要です。資格は必須ではありませんが、ホームビジターを養成し、信頼関係を築き丁寧にサポートできる力や、利用家庭に寄り添い適切なアセスメントを行える力が必要です。そのために、原則として子育て支援の経験が少なくとも3年以上必要と考えています。団体によっては専任の場合と他事業との兼任の場合があり、人件費予算には幅がありますが、支援の質を担保し続けるためには、オーガナイザーは有償スタッフであることが基本的な考え方です。

● 活動に関する経費

主な経費としては、①ホームビジター養成講座開催費用、②訪問時の交通費、③オーガナイザーの人件費の3点があります。その他、スキルアップ研修費、周知ツール印刷費、電話等通信費、保険代、HSJ登録料等の運営費も必要となります。年間の予算総額は、人口規模や団体の状況によって90万～300万円と様々です。ホームビジター養成講座は、通常毎年1回開催されています。(修了後のボランティア活動が参加条件のため、参加費は原則無料です。)

● 財源

現在、ホームスタート事業に活用できる国の制度は、子育て支援拠点加算事業、利用者支援事業、産前産後サポート事業、養育支援訪問事業、以上4事業です。ホームスタート事業は民間助成金等を活用して地域団体主導で始まる場合がありますが、自治体の委託や補助事業など、制度に位置付けられて実施される場合も増えてきています。HSJへお気軽にお問い合わせください。

TEL: 03-5287-5771 Eメール: info@homestartjapan.org

※「ホームスタート実践ガイド」はHPよりご購入頂けます。
www.homestartjapan.org

地域の孤立家庭に 安心安全な支援を 私たちが届けるために

現場で感じた訪問支援の必要性

つどいの広場を運営する中で、「ひろばに辿りつくまでが辛かった。虐待は他人事ではない。」といった利用者の話を聞き、出て来れない親子に対しての支援の必要性を強く持ち始めました。自分たちの支援活動の限界を感じる一方で、訪問支援を新たに始めるには不安もあり、自分たちには敷居が高い活動だと感じていました。

ホームスタートに決めた理由

そんな時にホームスタートのことを知りました。きちんとしたシステムがあり、これなら自分たちでも訪問支援ができると思いました。ホームスタート・ジャパンのバックアップ体制もあり、全国に同じ取り組みをしている人たちがいることも心強い点です。

実感する訪問支援の成果

ホームビジター養成講座は、今まで実施してきた講座とは違う参加型プログラムで、回を重ねるごとに参加者に良い変化がありました。訪問が始まるまでは、訪問を受け入れてもらえるかどうかという不安の声もありましたが、支援をする中で家族が肯定的な子育てができるようになっていく様子がみられ、ビジター自身もやりがいを感じられました。支援する側と支援される側双方がエンパワメントできる有効な活動であることが実感されました。ホームスタートは、地域に根付いたピアサポートの柔軟性や有効性を存分に活かせる活動です。

(ホームスタート実践ガイドより抜粋編集)

地域ですすめること

地域での新たな訪問支援の必要性が見出されたら、ホームスタートの支援方法に関係者間で確認し、導入の検討を始めます。

1

ホームスタート学習会への講師派遣や相談サポートをします。



ホームスタート・ジャパンのサポート

ホームスタートを始める合意が団体内や関係機関と確認されたら、具体的な事業計画に取りかかります。(提出フォーム有)

2

導入後の安定した活動のために最初の体制づくりは非常に重要なため、スタートアップの情報や助言を提供します。

実施計画を策定したら、オーガナイザー養成コースに申込みます。事業を支えるトラスティーの参加も可能です。(開催時期についてはお問い合わせ下さい)

3

オーガナイザー養成コースでは、ホームビジター養成講座の企画運営方法や訪問のケースマネジメント等、マニュアルを基にしながら活動の全ノウハウを提供します。

研修修了後に地域でのホームビジター養成講座をオーガナイザーが中心となって開催します。その後、利用家庭の募集を行い、いよいよ訪問支援が始まります。

4

初回のホームビジター養成講座の開催にむけて、企画相談や講師派遣を行っています。また、利用家庭向けパンフレットなどの各種広報ツールも提供しています。

5家庭以上への訪問支援が終了した時点で、ケースマネジメント方法等のPDCAを行い、正式スキーム認定のための手続きをします。

5

正式スキーム認定後も、スキルアップ研修や相談コンサルテーションの提供など、質の高い訪問支援を実践してゆくための継続運営サポートを実施しています。



すべての子どもに
幸せな人生のスタートを・・・

家庭訪問型子育て支援 ホームスタート



✿ひろがる!地域のつながり

利用者の声



転勤後の出産で地域にも子育てにも慣れずに産後鬱のような辛い日々を過ごしていましたが、一緒に子育てひろばや公園に外出をしたり話もできて、本当に子育てがすごく楽しくなりました。



ビジターさんは子育ての経験がある方だけに、一緒に過ごしなが、いろいろと気軽に子育てについて聞けるのでとても助かっています。この町で子どもと暮らしてこういう気持ちになれました。



頼れる存在がほしかったので、とても助かりました。キリキリせずに子どもたちと笑顔ですごせてとても感謝しています。助けていただいたことを私もいつかしたいなと思っています。



✿ひろがる!ボランティアのよろこび

ホームビジターの声



日常のことを友だちとして一緒に行動している感じです。ほんの少しでも力になれたかなと思うだけで私も力がもらえる、そんなやりがいを感じる活動です。オーガナイザーの調整支援もあり安心ですね。



2016年11月 健やか親子21 健康寿命をのぼそう!AWARD
母子保健分野 厚生労働大臣最優秀賞を受賞しました!

✿利用者から寄せられる高い効果

親の孤立感の解消	98%
親の心の安定	97%
子どもの心の健康	96%
子どもの成長・発達を促す機会作り、子どもの身体・健康	94%

※データベースHS-Quality Improvement Supporting System 2018/4/1～2019/3/31集計結果より

発行元・問い合わせ先： 特定非営利活動法人ホームスタート・ジャパン

〒169-0072 東京都新宿区大久保 3-10-1 B 棟 2F TEL : 03-5287-5771

FAX : 03-5287-5770 Eメール : info@homestartjapan.org

ホームページ : <http://www.homestartjapan.org>

